

<今日の説教のポイント ローマの信徒への手紙1章16-17節>

①福音を恥としない 16節a

パウロは「わたしは福音を恥としない」と断言する。この言葉は、否定形で書かれているが、そのことは消極的なことではなく、むしろより強い、より積極的なキリストの福音に対する信頼と信仰の告白を意味する。また、「福音の宣教を恥としない」という意味も含まれている。福音とは“Good News”であり、「救いをもたらす神の力」である。これはローマの手紙全体を貫いているパウロの主張の主旋律である。

②福音とは神の力 16節b

福音とは、人種、民族、国籍の違いを乗り越えさせ、すべての隔ての壁を打ち破り、すべての者に神の救いを与える。福音とは、日常生活での言動や生活全体を動かす力である。喜びと感謝を生み出す。福音は人間の生きること全体を根底から支え、生かす神の力である。その聖書の実例はペトロの召命を促した出来事で「お言葉ですから」とキリストの言葉に聴き従う行動によって驚くべき恵みを与えられる(ルカ5:1-11)。神の力の働きかけによって、自分の立つ場所が自分自身ではなく、主の言葉にその根拠を置くように変えられる。信徒の歩みが始まる。

③信仰によって生きる 17節

福音に示される神の義とは、正しくない者を裁き、同時に、憐みと赦しをもって正しくない者をも正しい者として、赦された罪人して生きることができる。神の義の中には、この神の裁きと赦しの両面を読み取ることができるであろう。神は信仰によって救いを与えてくださる。救いとは、神の支配の中に移され、その中で生きること。わたしどもの生活の中に神の意志が貫かれる生き方こそが、救われた者の生き方である。信仰とは、わたしどもの内における神の恵みの働きに押し出されて、喜びと感謝をもって神の目の前で生きようと恵みに応答する生き方。

④福音を恥としない生き方の実例

主の働き人を求める1枚のパンフレットを通して、神の呼びかけの言葉を聞き取り、神の前にひれ伏して祈り、異教の禁教の地での福音の宣教に遣わしてくださいと祈るジェームズ・バラの決断。福音を恥としない生き方そのもの。御言葉を自分への問いかけとして聞く信仰の応答。